〔假名暦註解〕二百十日　立春ヨリ二百十日メナリ、秋風烈キ時ナリ、

○按ズルニ、二百十日ノ事ハ、歳時部時節篇ニ載ス、

〔利根川圖志一〕天候　黑雲急に起るは、その方より暴風來る徵なり、曉に黑雲奇峯を爲すは、その方に風行くなり、東南風は晴にて、西北風は雨なり、然れども時節に因て差あり、日光山よく晴れたるは北西風なり、北西風、又ヤマデといふ、日光山より出づるの義なり、曇りたるは雨徵なり、筑波山よく晴れたるは北東風なり、筑波オロシともいふ　雨日は晴徵とす、富士山に黑雲あれば西南風なり、これをフジカタといふ、南西風はフジミナミといふ、曇天に富士山のみ晴れたるも西南風なり、　鳥飛下るに必風に向ふ、是を以て風の方向を知る、○中略　星光搖くは、大風の徵なり、

〔羅山文集五十六雜著〕戲題風神井詩　寛永十六年作

佐久間親衞校尉謂余曰、室家嘗相告曰、良人貌似風神、人之所憚也、聞而笑之、後一夕候營中、有命曰、爾似風神、雖知爲其戲謔、然唯而平伏退、公之時、告室中曰、鈞旨如此、婦之言相協、不亦奇乎、相共又笑、因倩畫工探幽圖之、願乞一言以記之、答曰、夫風者大塊之噫氣也、其神曰飛廉、在星曰箕伯、在卦曰巽二、在管曰地籟、在獸曰貍母、隱其名曰封家十二姨、其發則觸物有聲而無色、然天地之間無所不有焉、若人爲風伯、則亦益奇乎、小詩一首以請、故應之、

吹出土囊口、封姨爲配偶、于喁掃俗塵、在斯阿誰某、

〔續近世畸人傳五〕建凌岱

俳諧を業とせる時、淺草門前に住、雷神のかたくに風神の袋負へる形ををかしとて、自涼袋と名乘しが、俳諧を止てのち、文字を凌岱とあらたむ、